



## 年間第 17 主日 (ルカ 11:1-13)

求めなさい。探しなさい。門をたたきなさい。

田平教会は、小教区内の信徒の新型コロナウイルス陽性判定報告を受けて臨時の役員会を開き、年間第 17 主日と、年間第 17 週週日のミサを中止することにしました。ここ一週間の長崎県の感染状況を考えれば、誰が感染してもおかしくないし、感染対策を続ける中で感染したことを誰も責めることはできません。受けとめていきましょう。

さて福音朗読は、イエスが主の祈りを弟子に教える場面と、粘り強く祈り求めることが教えられています。このミサ動画を観てくださっている信心深い信徒にとって、今日イエスが教えてくださることは何も異存が無いかも知れません。しかし、お世辞にも信心深いと言えない中田神父にとっては、粘り強く祈ることを教え諭すのは後ろ指を指される思いがします。「信心深くないあなたに説教されたくない」と言われてもしかたがありません。

そんな中田神父ですが、「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」(11・9) この体験が無いこともありません。数少ない体験を通して、信心深い皆さんが今週の福音朗読を味わう助けになればと思います。

私の中で「一度でいいから体験してみたいこと」と言えば、司祭叙階式の日の教話ということになります。叙階の秘跡を受ける人と、集まった会衆に向けて、この日の心構えを語るお話です。たいていは、受階者の所属教会の主任司祭が引き受けます。

ですから赴任した教会に候補者がいることが大前提です。なかには巡り合わせが良くて、赴任した二つの教会で司祭叙階の対象となる助祭がいて、二回教話をおこなった後輩司祭もいます。ただ、「やりたいなあ」と言っている人が引き受けるよりも、「やりたくないなあ」と思っている人に大役が回った方が、誠実な話ができるのかも知れません。

仮に、私にその大役が回ってきたら、参考にしたいなあと思っている説教があります。それはイエズス会のジェームズ・バークレー神父様が実際の叙階式でなさった説教で、その日本語訳を大神学校の助祭の時に読んだことがあります。「弱さを身に負うがゆえに」(“Because beset by weakness”)というタイトルで、コリントの信徒への手紙二の「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」(二コリント 12・9) これがそのまま当てはまる説教です。

大変印象深い説教でした。そこで、大神学校の図書館の責任者であるカナダ人の神父様をお願いして、記事のコピーを取ってもらい、卒業してからも持ち歩いていたので。ところが数回の転勤で引っ越しをするうちに、大切な説教のコピーを失ってしまいました。その後大神学校に行っても図書館には足が遠のき、しばらく読み返すことができなくなっていたのです。

そんな時、願ってもないチャンスが回ってきました。今から 10 年ほど前です。私が代表を引き受けている視覚障害者へのボランティアグループの会員の一人が、純心大学の図書室で働いていました。そこで雑誌のことを尋ねると、その雑誌の該当するページをコピーすることができるので、久しぶりに記事を読み返すことができたのでした。

ここまででしたら、「それは良かったですね」で終わるのですが、話はこれで終わりません。新しい辞令を受けて、私は現在の田平教会に来ることになりました。恥ずかしい話ですが、まともや、叙階式ミサの説教原稿を失ってしまったのです。それでもずっと、心の隅に手に入れたいという思いがありました。そこへ、まともチャンスが巡ってきます。

田平教会は何人もの純心聖母会のシスターを輩出しています。その中の一人のシスターに、「記事を手に入れることはできるだろうか」と相談してみたのです。すると快く引き受けてくださり、近いうちにコピーして届けてくださることになりました。今度ばかりは失うことがないように、クラウドドライブに保管しておこうと思っています。

中田神父にとっての「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる」このみことばは、三十年にわたる司祭生活のなかの一つの出来事で体験できました。長い時間がかかりましたが、「だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる」(11・10)この体験ができたのでした。

イエスの約束は、「だれでも」体験できる。これは信頼に値します。私はお世辞にも信心深いとは言えない神父ですが、そんな私でも、長年探し求めたものを手に入れることができました。これからも、求め、探し、門をたたくことで、イエスは信頼に値するお方ですと人々に証ししていきたいものです。